

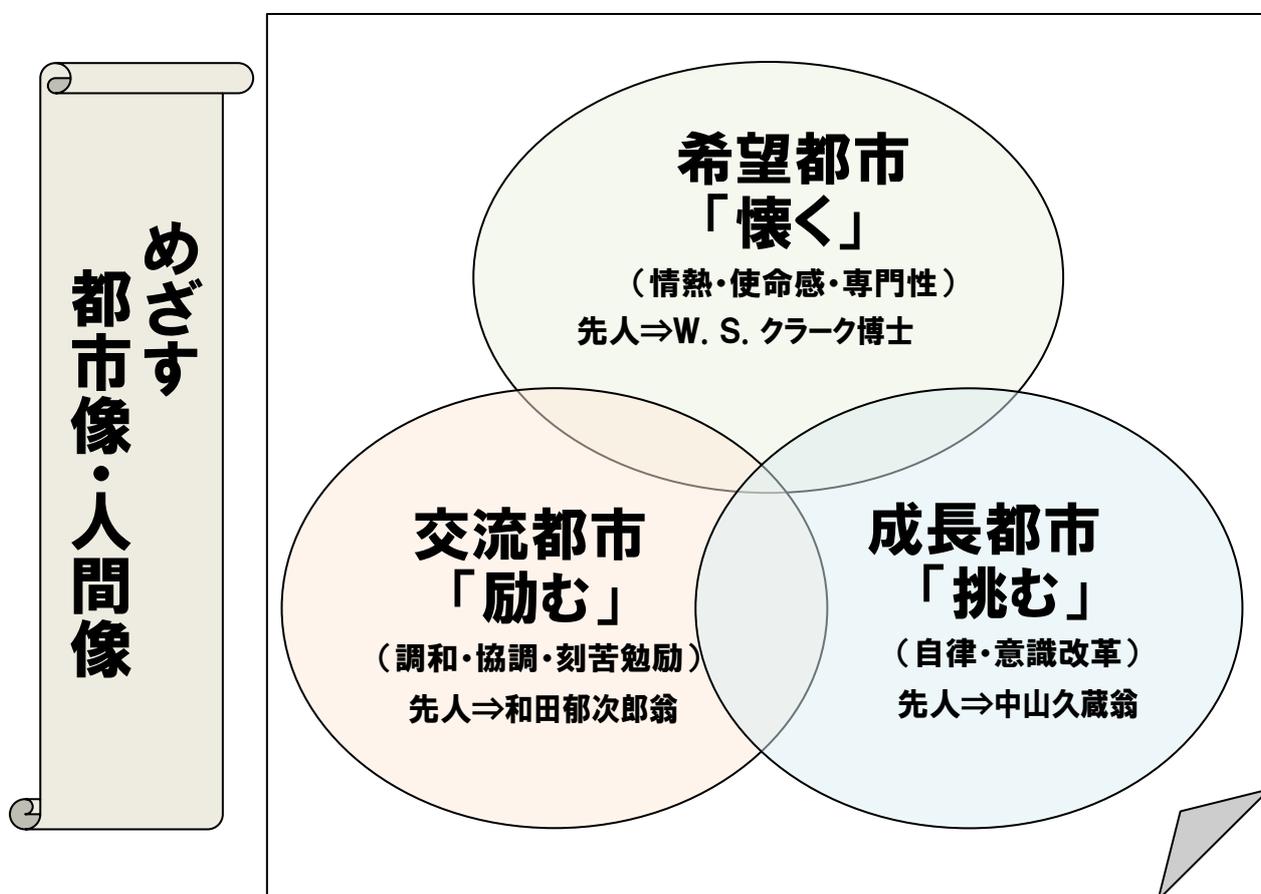
第1章 北広島市教育振興基本計画

1 北広島のまちづくり・人づくり

北広島市教育委員会は、令和12年度（2030）までを計画期間とする「北広島市総合計画（第6次）」における基本目標「学び合い心を育むまち」に基づき、これまでの基本理念や基本姿勢を踏まえつつ、新たな北広島市の教育についての基本的な方向を示し着実に推進するための個別・具体の施策について体系的に整理し、政策として本市がめざす教育の推進を目的とする「北広島市教育振興基本計画（2021～2030）」（以下「教育振興基本計画」）を令和3年2月、策定しました。

この教育振興基本計画においては、本市が進める「まちづくり」にふさわしい「人づくり」に重点を置き、三つの都市像と、このまちにゆかりのある先人の精神や行動から導き出された人間像を重ね、「希望都市」にはW. S. クラーク博士による「希望を懐く」、「交流都市」には和田郁次郎翁による「交流に励む」、「成長都市」には中山久蔵翁による「成長に挑む」を象徴的に掲げ、教育施策を推進するものであります。

教育振興基本計画では、こうした人づくりの精神、めざす人間像の実現に向け、9つの政策と26の施策を展開しています。



(出典) 北広島市教育委員会 「令和5年度 北広島市学校教育の推進方針」

2 北広島市にゆかりのある3人の先人の精神を礎として ～懐く・励む・挑む～

「大志をいだき学びまち・きたひろしま」は北広島市開拓期にゆかりのある偉大な先人、W. S. クラーク博士、和田郁次郎翁、中山久蔵翁の3人が伝える「懐く」「励む」「挑む」の精神を人材育成のキーワードとして「これからの人づくり」の視点としています。

「懐く」

1877年、北広島市島松沢で米国への帰国に際して、W. S. クラーク博士は当時の教え子たちに「青年よ 大志を懐け」の名言を残しています。彼は当時の学生たちに情熱・使命感・高い専門性をもち、新しい時代を切り開くよう伝え続け、「希望を懐く」人づくりに努めました。

その情熱・使命感・専門性に学び、北広島市第6次総合計画（2021～2030）に示されている「希望都市」の実現に向け、「懐く」を掲げています。

「励む」

1884年、広島県人により北広島の開拓の歩みが始まりました。そのリーダーとして苦難の道を歩みながら努力を続けたのが和田郁次郎翁です。新たな発想とゆるがぬ信念、そして、たゆまぬ努力でまちと人を動かし続けた彼は、「交流に励む人」そのものでした。

その調和・協調・刻苦勉勵の姿勢に学び、北広島市第6次総合計画（2021～2030）に示されている「交流都市」の実現に向け、「励む」を掲げています。

「挑む」

1871年、現在の島松沢に入植した中山久蔵翁は、当時は不可能とされていた道南以北での稲作に挑みました。彼は、幾多の苦勞の末、2年後に米を収穫し、開拓に当たっていた人々に種もみを無償で配布し、寒地稲作の祖として、本道の稲作の端緒を開いた「成長に挑む人」でした。※本年度、寒地稲作成功150周年

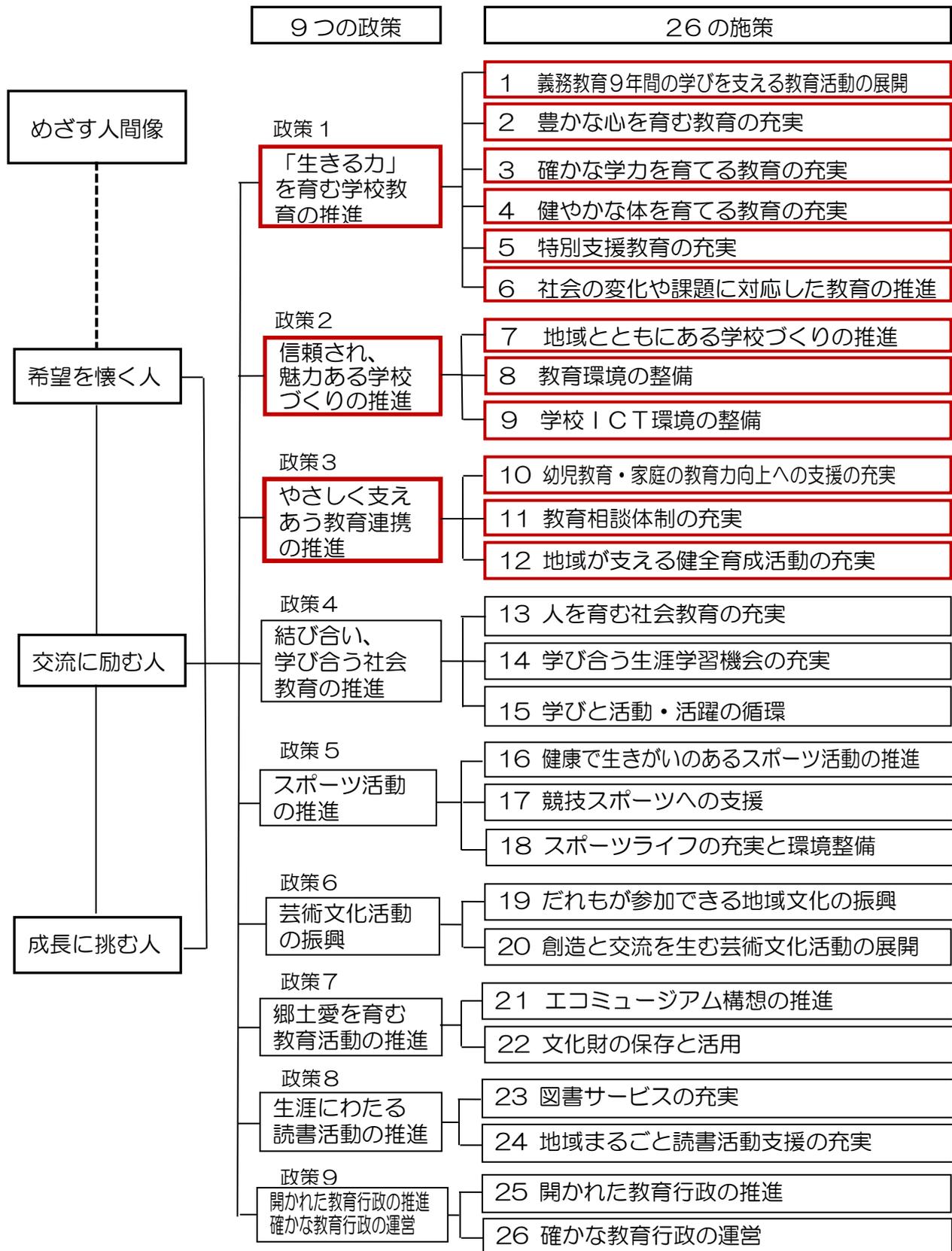
その自律・意識改革・行動の姿に学び、北広島市第6次総合計画（2021～2030）に示されている「成長都市」の実現に向け、「挑む」を掲げています。



北広島市教育振興基本計画（2021～2030）の体系

テーマ

「大志をいだき未来を切り拓くまち・きたひろしま」



第2章 学校教育の推進方針

令和5年度 北広島市学校教育の推進方針

北広島市の教育理念

北広島市教育委員会

豊かな知性や心と 健やかな身体をもって
自然と創造の調和を図り、郷土を愛し、未来を切り拓く人を育む

昭和44年8月制定 昭和60年3月改訂 令和3年2月改訂

北広島市の教育理念

〈めざす人間像〉

希望を懐く人

北広島市教育ビジョン

交流に励む人 成長に挑む人

クラーク
博士

和田
郁次郎翁

中山
久蔵翁

めざす 子ども像

大志をいだき 心豊かに
たくましく 生きる子ども

賢く

優しく

たくましく

学校教育 推進政策

生きる力を育む
学校教育の推進

信頼され魅力ある
学校づくりの推進

やさしく支えあう
教育連携の推進

学校教育の 重点

義務教育9年間を通して「生きる力」を育む
小中一貫教育の漸進

本年度の 実践目標

中学校区ごとの教育計画のさらなる実践と
個別最適な学びと協働的な学びの往還

実践への 具体的 手立て

- (1)教育課程 9年間を見通した系統的な教育課程の実践・検証を継続する
- (2)授業改革 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改革、学力・学習を支える基盤づくりを進める
- (3)道徳教育 道徳教育推進教師を中心に、道徳科の充実を図る
- (4)特別支援教育 校内教育支援委員会を充実させ、適切な指導及び必要な支援を組織的、計画的に行う
- (5)ICT活用 一人一台端末等、ICT機器の積極的な活用により、わかる授業を構築し、より主体的な学びを進める
- (6)大志学 「きたひろ夢ノート」の活用を進め、キャリア形成のための大志学を実践する
- (7)生徒指導 子どもたちの命と心を守り、いじめ・不登校の未然防止を徹底する
- (8)協働 学校・家庭・地域が子どもの育ちのために、目指すべき教育のあり方を共有し、協働活動を進める
- (9)資質向上 中学校区での合同研修と授業交流により職能向上を図る
- (10)今日的課題 ESDに取り組み、SDGsの実現を目指す

健やかな学びを保障する新しい教育様式の実践
マネジメントサイクルによる学校経営の推進